

一般演題

マイボーム腺機能不全に対するIntense Pulsed Light治療の有効性と検査所見との関係

有田 玲子^{1,2}, 福岡 詩麻^{2,3}

¹伊藤医院, ²LIME研究会, ³大宮はまだ眼科西口分院

【目的】 Intense Pulsed Light (IPL)は、マイボーム腺機能不全(MGD)に対して有効である。我々は、IPL治療前の涙液・マイボーム腺関連パラメータを、治療が有効だった群と無効だった群でレトロスペクティブに比較検討した。

【方法】 対象は、2022年1月から2023年12月に伊藤医院でIPLを3回以上施行し、3か月以上経過観察できたMGD患者872名。自覚症状(SPEED)、眼瞼縁所見、マイバムグレード、フルオレセイン涙液層破壊時間、角結膜上皮障害、マイボスコア、マイボグラフィー所見、シルマーテストを評価。SPEEDスコアが4以上、マイバムグレードが1以上改善した場合を有効とした。

【結果】 解析したのは、全検査データが取得できた73名(平均年齢 52.5 ± 14.7 歳、男性26名、女性47名)。IPL平均施術回数は 8.6 ± 3.8 回、58名(79%)で有効だった。年齢、性別、施術回数は両群間で有意差はなかった。有効群と比較し無効群では、pluggingと瞼縁血管拡張が少なく($P = 0.008, < 0.001$)、上眼瞼のマイバムグレードとマイボスコアが高かった($P = 0.001, 0.011$)。無効群では上眼瞼の耳側と鼻側、下眼瞼の中央に腺の脱落が多く見られ($P = 0.008, < 0.001, 0.008$)、上眼瞼の腺が細い患者が多かった($P = 0.018$)。

【結論】 上下マイボーム腺の脱落、上眼瞼の腺の細さ、マイバムの状態が悪い患者は、IPL治療に抵抗性を示すことが多かった。IPL治療効果の予測にはマイボグラフィーが有用である可能性が示唆された。

【利益相反公表基準】 該当有

【倫理審査】 承認有

【IC】 取得有